

学力の基礎をきたえ どの子も伸ばす研究会ニュース

NO. 342

学力研の広場

2023. 9. 3

学力研発行

常任委員長 岸本ひとみ

郵便振替 00920-9-319769

8月6日、エル・おおさかにて、学力研の全国フォーラムが開催されました。

実に、2019年の夏以来、4年ぶりの開催となりました。

私も当日の朝に新幹線に乗り大阪へ向かいました。ZOOMでは毎月のように顔を合わせていましたが、直接会って話すのはやはり格別でした。会場に集った先生方の熱気も、すごかったです。

コロナ禍により、オンラインでのやり取りが教員の世界にも一気に広まりました。その結果、オンラインでなければつなぐことが無かったであろう人たちとも出会えました。今後も必要に応じてオンラインは活用していくべきだと思います。しかし、やはり、オンラインと対面とは、違うものでした。

『スマホはどこまで脳を壊すか』（榑浩平 著）には、オンライン上の会話では、対話している相手との脳の同期が起こらず、結果として何もしていないときと同じ程度しか脳が働いていない…という実験結果が紹介されています。オンラインは、直接会って話すまでの「つなぎ」にこそなれ、完全にそれを代替することはできないようです。全国フォーラムの一日で、それが確信に変わりました。

志を同じくする仲間が、互いの実践や悩み事を持ち寄って集まり、対話を通して学び合う。そんな、ずっと大切にされてきたはずの取り組みを、もう一度取り戻す必要があるのかもしれない。（堀井）

CONTENTS

◇全国フォーラム2023 各講座のまとめ◇

全体講演～学力づくりで子どもをつなぐ～「できた、わかった、つながった」	十川瑠都	2
低学年分科会	金井敬之	3
中学年分科会	図書啓展	5
高学年分科会	井川有香子	7
家庭塾・中学高校分科会	小山民子	9

◇連載◇

「どの子も伸ばす」を本気で考える59「意欲格差」に負けない! 公立小学校へ	岡本美穂	12
考える力をつけるための授業の組み立て方①思考力の土台となるものとは?	荒井賢一	15
社会科(歴史)授業力アップ講座⑧教科書の文・図などを吟味する(2)	深澤英雄	17
「先生のための学校」誌上 開校	久保 齋	19

局長・常任委員長だより		21
学力研カレンダー		22

二〇一三 全国フォーラム 全体講演

「学力づくりの子どもをつなぐ」

「できた、わかった、つながった」

まとめ 十川 瑠都

岡本表穂

「自治の萌芽を育てる学級づくり」

「国語の授業を土台につなぐ」

『学級をつくるのは、自分たち』

特別活動として、学級で会社活動に取り組んでいる中の「新聞会社」では、学級の出来事、広めたい行動を言語化して伝える様子がありました。また、「クラス会議」では、議題決めから、子どもに委ねており、クラス全体が自分ごととして、話し合いに参加している姿がありました。一学期最後のお楽しみ会では、子どもたちが、一学期に頑張ったことの発表をしていたそうです。「言葉でつながる」ことを楽しむ様子が分かりました。

子どもたちに、このような言語活動の力をつける基になっているのは、国語の授業でした。岡本先生が、国語の授業で大切に

されていることは、①音読②めあてを言う、書く③発問を工夫する という三つのようです。言葉で友だちとつながる手段を授業の中で学習できるように、振り返りも大切にしていることを知りました。

久保香

「これからの教師のあり方」

いくつかの印象に残った言葉を抜き出して紹介します。

- ・世界観を共にする友だちが必要
- ・同じ志をもつ仲間、教育哲学を共にする仲間がいるからこそ、教師として強くなれる。

・教育はサービス業ではない。

先生自身によって違うことこそ、教育である。人によって違って良いし、不十分で良い。これを認めていく。

- ・個別要求を受け入れ、クラスづくりへの

侵害を許さない。

保護者との信頼を結ぶために、必要である。特別な配慮についても、理解させる。

- ・「共同」と「協同」の違いが分かる教師である。

子どもに学力をつけさせるために、大切なことは、「共同」である。最後まで「共同」を貫くことで、伸びていく。

深澤英雄

「全体会まとめ」

みんなで学ぶことが少なくなっている現在も、「一斉授業は不滅」だと学力研は主張している。学力研（落ち研）ができて、三十九年。小さな組織ではあるが、プリントや書籍の出版、百マス計算の提唱等大きな役割を果たしてきた。「すべての子どもに確かで豊かな学力を」という目指すことは変わらず、教育技術（方法）と教育哲学（理論）を研究し続け、未知・未開拓の教育実践を創り出していくことを続けていきたい。

これからも学力研で、学んでいこうと期待が膨らむお話でした。

低学年分科会報告

金井 敬之(大阪)

○1年「みんなで伸び合う授業づくり」

李 詩愛(大阪)

初めての1年生担任。不安もあったが、1年生講座や学力研で学んだことを実践することで、子どもたちがつながり、楽しく勉強ができて、学力をつけることができた。先生がみんなを大好きになる、学校生活や友だち、遊びなど好きを増やしてほしいという願いを込めて「だいすき♥1ねんせい」を学年目標に掲げた。

学校はかしくなる場所だよと伝えて、「3、2、1、ビーム」を合言葉にして、相手の目を見て話を聞くことを教え、宿題を毎日(なんと入学式から)出し、家庭学習が習慣づくようにした。特に力を入れて取り組んだのは、宿題プリント、100マス計算、読み上げ計算、つぶやき漢字、リズム漢字である。

宿題プリントは、志水廣先生(愛知教育

大名誉教授)の「どの子もできる10分間プリント」を参考にして、表は算数のテキスト問題とオリジナル問題、裏は国語の漢字と文法の問題を載せたプリントを毎日宿題にした。

算数の習熟の手立てとして、10までの数の合成と分解を、「10は1と9、2と8、3と7、…9と1、おしまい!」と全員でテンポ良く唱えさせた。

100マス計算にも取り組んだ。1年生の子どもたちの実態をふまえ、10マスから徐々にマスを増やし、36マス、49マスと増やしていき、3学期には81マスでほぼ全員が5分以内に終わられるようになった。100マス計算は、努力が成果につながり、自己肯定感がアップするだけでなく、他の子のがんばりに拍手を送れるなどつながりも生み出した。

読み上げ計算(これも志水廣先生の教材)

の取り組みでは、1分間隣同士で読み上げられた計算問題の答えを唱えることで、計算力を鍛え、友だちとのつながりを深めた。漢字学習は、つぶやき漢字ドリル(久保齋先生の開発したドリル)を使い、楽しく正しい筆順で漢字を覚え、教え合いもできた。うそテスト、本テストと順を追って学習し漢字が苦手な支援学級のAさんも100点を取れるようになった。

リズム漢字(鈴木基久先生作)は、1年生の漢字の総復習として取り組んだ。みんなが声を揃えて漢字を唱えることで楽しく漢字を覚えることができた。読みだけでなく書けるようになることにも力を入れた。入学式で新一年生への歓迎の言葉の中で、リズム漢字を見事に披露した。

6年間で最も学習意欲が高いとも言われる1年生の発達にふさわしい読み書き計算の取り組みである。さらに、特筆すべきことは、これらの学力づくりの取り組みを、学年ぐるみで取り組んだということである。学年の先生の共通理解と協力で、学年の子どもたち全員がかしくなれたことは素晴らしいと思う。

〇2年『とくまの』『わかる』『つながる』で

きらきら輝く子どもたち」

吉田 雅直（大阪）

きらきら輝くクラスにするために、学力づくりで学級づくりをする。毎日、取り組めて1年間無理なくできる学力づくりは、学習意欲、学習規律が高められ、自己肯定感も高められる。学年や学校に広げやすく、保護者の理解も得られやすい。

「快適な情動」の中こそ、子どもたちは学力をつけることができる。

特に力を入れた実践は、音読、漢字、100マス計算、なわとびである。

音読は、学級づくりのバロメーターであり、学力と学級づくりの要である。脳の前頭葉を活性化する。言わば、脳の全身運動である。どの子も伸ばし、心地よさがあり、チャイムとともに音読をすることで学習規律をつけることもできる。集中力も高まる。連れ読み、一斉読み、交代読み、めいめい読み、指示はさみ読みなど、変化のあるくり返して音読練習をする。声の出し方、声の大きさ、声の張り方も指導もする（かしい顔になっているという言葉がけが有

効）。

板書で声の大きさを視覚化する。聞き手意識と筆者意識も指導し音読に生かす。学習のまとめとして、音読発表会や音読劇に取り組む。

漢字は、つぶやき漢字で習熟をはかる。つぶやき漢字は記憶に残りやすく定着しやすい。正しい筆順も覚えられる。漢字のまちがいを防ぐつぶやき方も工夫できる。

つぶやき漢字は、子どもたちの共有財産になり学級文化になる。小テストの前にも、「つぶやきタイム」をとってみんなでテスト勉強をする。そうすることで孤独から共同の取り組みになる。

100マス計算は、昨日の自分に勝つことを合言葉に、毎日取り組みタイムを計測する。学期末には「計算トライアスロン」と称してたし算、ひき算、かけ算の3種類に取り組む。

朝から寝ていることが多かったAくんは、100マス計算でタイムを伸ばし、他の教科の成績もアップした。

なわとびは、4月から1年を通じて取り組む。なわとびは努力が成果に結びつきつ

きやすい実践である。

苦手な子のできないポイントを分析すると、足の跳躍、腕の回旋、その連動であることがわかった。そのことを指導に生かした。粘り強く練習をくり返し、数カ月後には、跳べない子がいなくなつた。「冬のなわとび週間」などの短時間の取り組みでは、このように跳べない子を跳べるようにすることはできなかっただろう。

吉田実践を貫くのは、「できないことを科化する」という視点である。できないのはなぜかを分析し、そのための手立てを講じ、それを教材化するという視点である。

今、学校現場では「履修主義」が蔓延している。授業は計画どおり進めるが、できる子はできる、できない子はできないまま、テストをして評価するという傾向が強まっている。

そんな状況の中で、「学力づくりで学級づくり」「できないを科化する」という吉田実践は貴重である。学力づくりの「王道」の実践である。

参加者 会場15名 zoom9名

中学年分科会まとめ

図書 啓展(ずしよひろのぶ)大阪みなみ学力研

●学び方を積み上げる3年説明文の学習

鈴木基久(静岡)

4年生で要約を学習した時に課題が難しいと感じた経験から、二つの柱で実践した。
・系統性を重視し、学習を積み上げる

3年生でも要約(縮約)に取り組む。

・子どもが学習用語を使えるようにする

要点・要約・要旨を正しく使用する。

以下のように押さえない。

要点…形式段落の中で最も大事なところ

要約…文章全体のあらましをまとめること

要旨…文章全体の中で筆者が述べようとする

内容や考え中心となる事柄

まず二学期の「すがたを変える大豆」(光

村図書)では、学習の最後に要約文にチャレ

ンジ。各段落の要点をつなげて初め・中・終

わりでまとめること、初めには問い、終わり

には筆者の考えを書くことを確認した。

三学期の「ありの行列」での要約(縮約)

の評価ポイントは、

初め・問いの文、

中・キーワードを使っているか、

終わり・9段落のまとめが書いてあるか、形式が、初め・中・終わりの三部構成か、とした。

要約の実践で、「言い方を変えても中身が

同じだったらいい」を分からせること、思想

がわかれば短くでき言い換えもできること

を学んだ。学習の積み上げを意識すること

で、繰り返しでできる子が増え、教材によつ

て要約の難易度があり、次の学年に繋がる

スモールステップとなる成果があった。

二学期の「食べ物のみつを教えます」で

は、調べる材料には魚の切り身・豆腐・大根・

たまご・もちがお勧め。本で調べさせるとき

は、事前に準備し該当のページだけを子ども

にも示すようにする。「生活探検大図鑑」は

お勧め。同じ食材を選んだ子どもたちが集

まって一緒に取り組むようにする。

学び方の積み上げには、

・繰り返し学習できる単元計画

・学習用語を使えるように

・作文の3部構成の定着

・はがき新聞(アウトプット型)に日常的

に取り組むこと、が大切。

【講座の感想文から】

・要約や要点のまとめ方の指導法のヒントがもたらえて嬉しかったです。

・できた、できない、(正解・不正解)が漠

然とした国語で要約指導の困難さを感じて

いました。「大事な一文」「大事な言葉」を見

つけさせるのに、「大事」って何?という子

どももいて苦労します。

・何を目的に書くのかということを示して

も、ある程度の構成を示しても難しい児童

もいて、できない・困ったという顔をしてい

ました。そういった子に対して、今日聞いた

ような手立てで、実態を把握した授業づく

りをしていかなければと感じました。

・今回のお話を聞いて、書く時の条件をあんな

な風に提示してあげたら良かったな、と反省

することができました。

●「わり算筆算をみんなで乗り越えよう」

根無信行(大阪)

「2位数でわるわり算の筆算」は、その後の割合や人口密度などの学習でも活用する。どの子にも身につけさせたいが、商の修正などつまずきの宝庫でもある。

まず、全校での**計算力実態調査**で、4年生は3桁×1桁と空位のあるひき算に誤答が多く、九九やくり下がりが引き算の基礎計算(さかのぼり)をして学習に入った。

学校ぐるみで「えびチャレ(戎チャレンジ)」という学年課題に応じた計算練習の取り組みを進めている。学年ごとに型分けされたB5プリントを整備。(2年前からタブレットに配布できるデジタル版も対応)めあては**前の自分の記録と比べて伸ばすこと**を目指してみんなですることにある。この積み重ねが「2位数でわるわり算」へのステップになる。

「2位数でわるわり算」では、個別学習にならぬよう色々な型の筆算を**みんなで一緒に**にする。全員で声を出し、唱えながら、解いていく。間違う前に修正するようにして、「できた」から「わかった」に繋がるように

した。

アルゴリズムはみんなで声を出して一緒に唱える:「た〜てる・かくける・ひ〜く・おろす、た〜てる:」と「十人のインディアン」の節で歌い、身振りと共に楽しむ。

たのしく取り組める「わり算忍者」(大達和彦先生作・メール dachi@-able.ne.jp)

のグッツ(指かくし法の指や仮商修正の「できま手裏剣」なども活用した。「片手かくし」

「○・△は、できません。」「○○・△は、できます。」「両手かくし」:・:・:・と全員で声を出しながら解いていく時間をたくさんとった。

黒板に式を書く↓商の立つ位を見つける↓商をたてる↓かける:と一人ずつ、また列単位で、リレー方式で前で問題を解かせていき、慣れさせた。

班活動で教え合うことで日頃と違う交流が生まれた。

商の見積もりでは**・27なら・30**と考え数字を書き足すことで仮商がたてやすくなった。

宿題も放課後数問を残って一緒にやって帰る取り組みで、課題のある子の計算力も

改善できた。(「宿題を学校でする」という取り組みは、講座内での交流でも出された)

それでも学習を終え、2ヶ月期間があれたら、商を立てる位や余りの扱いでつまずきが見られた。そこで再度「えびチャレ」で取り組み、定着をはかった。

【講座の感想文から】

・高学年を持つことが多く、今年初めて中学年を持ち、ここから「できない」に繋がっていくのだと思います。今やっていることがとても大事だと改めて思ったので、生かしていきたいと思います。

・算数の「**・2桁**」は重要なところです。3年生の間に身につけなければならぬ課題を確認できたので、今後計画的に取り組んでいきたいです。

・計算は、「**パワーUPと百マス**を続ける!」を目標にがんばっている今年度です。補助に入ってくださっている先生から、「少しずつ効果出てるね。すごいね。」とほめていただき、学力研の成果が少し出せているかな、と思うこの頃です。かけ算もできていない3年生ですが少しずつ基礎学力をつけられれば、とこれからはがんばります!

高学年分科会のまとめ

〜わかった・できる・つながったの授業の実践〜井川 有香子

高学年講座は、堀井先生の『五年生算数の難単元攻略法』と丸小野先生の『理科と社会科の授業づくり』の二講座が開かれました。

お二人ともご自分の実践を、ていねいにわかりやすく話され、一つひとつの実践を行う根拠も示されていました。参加者の皆さんが一生懸命メモをとられている姿が印象的な講座でした。

「単位量あたりの大きさ」「割合」「速さ」

〜5年生算数の難単元攻略法〜

愛知県 堀井 克也先生

「今、困っていることないですか？お近くの人とペアトークお願いします。」と和やかに始まった講座。ペアトークの内容を、『話した相手の困り感』として発表しましょう。」と、発表の仕方のハードルを下げてい

た堀井先生。すかさず、「こういうふうに出るの仕方を調整するといいですよ。」と覚えていたところも、勉強になりました。

五年生の難単元の中で特に三つの単元「単位量あたり」「割合」「速さ」が、『演算決定』ができなくて、苦労するしんどい単元であると伝え、その単元をわかる・できるようにするために、『面積図』という手立てを一貫して用いることでどの子も「できる」に近づくことができ、教え合って「つながる」ことができる実践を伝えられました。教科書にある線分図ではなかなか理解できない子も、面積図を使うと理解でき、教科書の線分図を使うことができる子は「友達に教える時困ってたけれど、面積図を使うとわかりやすく伝えることができる。」とふり返っていたそうです。教科書のやり方がベストとは限らず、子どもにとって「できる・わかる」教え方を模索していくこと

が大切だと身ぶり手ぶりを交えて熱く語ってくれました。

具体的には、

① 問題文を3回音読する。

② 単位ごと数に○を、問いの文に

下線を書く。

③ 答えを書くところへ、先に単位を書きしておく。

④ 式にも単位を書く。以上

を基本にスモールステップで面積図を導入

一学期は小数のかけ算・わり算で実践。

実践の手順としては、①全体で面積図を使って解く(一斉授業)②友達と協力して解く

③自分の力だけで面積図を解くという流れ

で取り組み、面積図が書けるようになった

子はクラス全員だそうです。ぜひ皆さんも

面積図を導入、実践してみませんか。

面積図の実際の使い方(練習その①)

1.2に3.2ぬれるペンキがあります。
このペンキ 2.5 dlでぬれる面積は何㎡ですか。

たて×横=面積
3.2 × 2.5 = 8

面積図 ニパターンの立式

たて	面積?	たて	面積	たて	面積
1	横	1	横?	1	横

たて×横=面積 面積÷たて=横 面積÷横=たて
面積図さえかければ、どの子も演算決定できる!

理科と社会科の授業づくり

大分県 丸小野 聡暢先生

「授業で活躍する子ってどんな子？」と聞かれると、

- ・自分の意思を伝えられる子・意欲的な子
- ・理解がはやい子、塾で習っている子と答える先生が多いと思います。

つまり、初めての単元の導入で、すでに既習している子達と全く学習していない子達とでは、違いがあるってことは…というところに着目した丸小野先生は、『学習先行情型の理科』と『予習と司会の技で鍛える社会』を提案されました。

【理科】

学習先行型の理科とは、実験・観察先行型ではなく、

- ① 先行学習（知識の習得）
- ② 再現実験（追試実験）
- ③ 教科書による学び直し（知識の言語化）

で進めていく授業実践です。先に知識が入ると、結果が分かっている面白くないとか学びがないと思う人もいるかもしれないというところを、わかりやす

く、「目から鱗が落ちる」ような感覚で聞くことができました。

具体例でいうと、「ものの燃え方」の単元で、子どもはすでに「ものが燃える時は酸素を使うこと」は知っています。ものが燃えた後二酸化炭素ができることも既習した上で追試実験をすると、

- ・ゆっくり火が消えた。
- ・ついたり消えたり(弱くなる)して消えた。
- ・だんだん曇って消えた。消えたら曇りがなくなった。

・十一〜十六秒くらいで消えた。と子どもの観察文が豊かになったと報告されていました。既習した上で実験すると、どうなるか予想ができた上で、さらによく観察しようとし、違う結果が出たら、なぜ違ったのかと考えようとするので、間違った実験結果を覚えることもなくなるという話に納得してうなずく参加者の姿が見られました。

教科書による学び直しとしてテスト問題の作り方・子ども同士の問題出し合い、単元のふり返りなどわかりやすく伝えていて、私もすぐに実践したくなりました。

【社会】

予習と司会で鍛える社会科の授業とは、

- ① あらかじめ勉強すること、まだ知らないことを知って、中心課題に取り組んで自分の考えや疑問をもって授業に参加する。
- ② 予習は、自分の知識を増やす取り組み。
- ③ 中心課題に対して、第一発言者が司会者となり、授業を進める。司会者は意見をまとめたり、対立点を明らかにして進める。

発言者はお互いの意見に対して発言する。という授業スタイルで進める授業です。

子どもたちは予習をして授業に臨んでいますが、知識が不十分なところは、教師と一緒にしておさえ直し、まとめることも大切にされていると話しておられました。

教師が『構想↓教え↓模倣・共同⇄習熟↓テスト勉強↓評価↓再構想』の教育システムを実践しながら、考え続けることで『どの子も伸びる』を追求していくことが大事だと丸小野先生の話聞いて思いました。

お二人の実践報告に対して、参加者の皆さんから、ぜひ二学期から取り組んでみたいという感想が多く、参加者の困り感に寄り添えた内容であったと思います。お二人の先生方ありがとうございました。

家庭塾・中学高校分科会報告

小山 民子

学校は、日本語を母語としない渡日の子どもたち、何らかの障がいのある子どもたち、様々な家庭環境を持つ子どもたちなど多様な子どもたちの学びの場です。しかし残念なことに、今の学校にはこの多様な子どもたちのための豊かな学びの場にはなりにくい現実があります。夜間中学校からの報告では、「学ぶことが未来をつくることである」と語られ、私たちは多様な学びにどのようなに答えていけばいいのかを考えました。午後からの「ピンチを生かした学力づくり」の報告の中にそのヒントを見つけたことが出来たように思います。

○家庭塾「多様な学びの場から見えてくる」と夜間中学校からの報告をもとに

内田 直(京都)

1. 夜間中学ドキュメンタリー 映画「こんばんはⅡ」

夜間中学は昭和二十年初頭に戦争などで義務教育を受けられない生徒のために中学校に併設されましたが、近年は不登校などの事情から教育を受けられないまま卒業した人の学び直しや現在不登校になっている生徒を受け入れることも可能になりました。また、日本語の教育を十分に受けずに日本にきた外国籍の生徒が夜間中学でも六割を超えていて、多様な背景を持つ人たちの受け皿としてのニーズが高まっています。しかし、現実には公立の夜間中学の増設がなかなか進まず、夜間中学のない場所では、自ら夜間中学を立ち上げる自主夜間中学が出来ました。

この「こんばんはⅡ」は、夜間中学生徒、卒業生、自主夜間中学学習者九名による証言と大竹しのぶさんの心のこもったナレーションから出来ています。

《九名の方の証言から》

- ・字を知らない、計算ができないことで何事にも逃げ腰になってきたが、字を習うことで自信がきました。
- ・身体のかなかのつくりを知り、知識が増えて自分が豊かになりました。
- ・学校で色々な事を学ぶことが楽しいです。
- ・学校は文字を習うだけではなく、友達と出会う場でもあります。
- ・学べないで止まっていた自分の世界が広がっていきました。

2. 公立洛友中学校 生徒三十三名(夜間部 十八名 昼間部 十五名)

*洛友中学校は、不登校を経験したがそれを克服しようとする昼間部の生徒と、様々な理由により学齢期に義務教育を果たすことができなかった夜間部の生徒が、世代や国境を越えてふれあい学び合う全国唯一の学校です。学習内容は、学年にこだわらず、少人数の教室でいいねいに学びなおすことができます。

*昼間部と夜間部のふれあい

火曜日と木曜日に実技科目があり一緒に学びあえることになっています。夜間部の生徒が、ものすごく楽しそうに授業を受けていることが、昼間部の生徒の刺激になり学習意欲や集団への適応を向上させる面があります。

*昼間部

不登校特例校として集団授業ではあるが、少人数の時間をかけて学ぶことができます。支援員や学生ボランティア等の活用により、各授業で2〜3人のサポート体制が組んでいます。授業では、実社会と直結した実践的な体験活動や京都の特性を活かした文化・芸術・ものづくり活動などを行います。

*夜間部

生徒の年齢層の幅の広さ(十代〜十代)に対応する柔軟な教え方を工夫しています。基礎基本の理解に幅があるためそれぞれの理解度に合わせ多くのボランティア、日本語指導教員、IT教員などの人材を有効活用しています。

○中学校「コロナ禍で伸びた学力」ピンチを生かした学力づくり

阿久澤 恵子(埼玉)

前回のレポートでは、休校から始まった中学校生活で子どもたちがどのように学力を身に付けていったかを報告しました。子どもたちはその後も成長を続けており、今回のレポートでは主に3年生での様子を中心にしました。

1 三年間の子どもたちの取組の様子と変化

*A型・B型わり算時間記録表から見える成長(中学二年生〜三年生)

・A型わり算(あまりなし)を週末課題として毎週末取り組み続け、長期休暇にも課題にしました。回を重ねるごとに計算時間が短縮され、それが子どもたちの自信や意欲につながっていきました。

A型わり算時間記録表の感想(中学二年生〜三年生)

・毎日やると必ず成長することがわかりました。

・続けていると普段の計算もすらすらできている気がしました。

・勉強前のこの習慣があると、やる気も出る気がしました。

・簡単なものこそ、より念入りにやること大切さを物語っています。

・頭が切り替えられ、集中して勉強できました。

*A型わり算からB型わり算(あまりあり、繰り下がりのなし)

A型わり算への「慣れ」や「飽き」もあり、三年生の九月から一月にB型わり算に取り組みました。あまりの出るわり算は出ないものより少し頭を使います。しかし、短期間の取り組みでしたが予想以上に成果が出た生徒が多かったようです。

B型わり算時間記録表の感想

・声を出しながら解くという工夫をしたら
タイムが伸びました。

・数学は応用も大切ですが、この時期にもう
一度基礎を固めることも良い勉強になる

とおもいました。

・大切なのはタイムではなく正確さと字を

丁寧に書くことだと分かりました。

・数字を素早く丁寧に正確に書くことを意
識できました。

三年生の最後までやりましたが、そこから学んだことは、子どもたちの感想と成果から教師も長く同じやり方で続けていく事が必要だと思いました。それには、難しいやり方ではなく簡単に取り掛かりやすいもの

でなくてはなりません。

2. 学力づくりの取り組みから

コロナによる休校の中、授業者のいない中での学習をどうするかを考え抜き、学力研で学んだ「1. やさしいことを 2. みんなで 3. こつこつ 4. 短時間で 5. 楽しみながら」の5原則をもとに課題を組み立てました。

A型わり算と小学校漢字学習と総合プリント

の課題は子どもたちの学習として定着し、卒業するまで続くことになりました。

書く授業にも力を入れました。学力研で「書くこと」によって学力は定着する」ことを学んだからです。定期テストで毎回作文を出題したこと、文章の書き方指導を徹底していたこと、書く場面を多く取り入れたことが、子どもたちの書く力を飛躍的に伸ばしていけました。

※参加者の感想文から※

・洛友中学校の報告では、映画からつぶさに様子がわかりました。そこに、学びの場の原点を感じました。

・自分の勤めている学校が、学ぶことが楽し

く安心できる場になっているかを考えてしまいました。

・学ぶことは生き延びること、学ぶことは未来を広げる、という言葉が印象的でした。

・日々取り組みを重ねながら、時に振り返り、次につなげる新しい視点を増すためにも学習会の大切さを改めて感じました。

・夜間中学の実践に生徒と先生の信頼に基づく姿を見ることができました。

・不登校や登校渋りが年々増していく中、このような温かい学びの場がたくさんできてほしいです。

・阿久澤先生の実践から「地道でめんどろなことをコツコツと手を動かして勉強すること」を肝に銘ずることができました。

・子どもができたかどうかという事実寄り添い、上からの指示や時流に流されず日々の実践を積み上げたいと思います。

・阿久澤先生の教育への思いの強さ、明るい人柄、ぶれなさに感動しました。子どもの実践からスタートし継続しきちんと総括される丁寧さに頭が下がります。

参加者 会場十三名

「意欲格差」に負けない！公立小学校へ

事務局長 岡本 美穂

■教育は行為

先日、久保先生を囲んで学習会を行いました。そこで話題になったテーマは

「受容的態度」

「共同」

「評価」

でした。特に「共同」は何年もずっと強調されている内容でしたが、本当の意味での「共同」とは何なのか、自分でも考える機会を頂きました。ただ、「共同」の場を作り出すとかそういう「環境」づくりの話だけでは「ただの集まり」で終わってしまいます。「ねらい」である、何のために「共同」するのか、何を目指しているのか、そこを教師一人ひとりが明確に持つ必要性を感じました。

だからこそ、まずは久保先生もよく言われる言葉ですが、「勉強は一人ですもの」「孤独に頑張るもの」というイメージを教師自身がなくしていかないと変わらないのではないのでしょうか。公立小学校だからこそ、「共同」が大いに力を発揮するのだと考えていま

す。それを実践で今後証明していきます。

(1) 受容的態度について

●受容する

学級全体をくすぐられないためにも、理不尽内容で邪魔されてはいけない。子どもに対しての成果を出すことを求めよう。

●荒れている子ども

学級に入ってきた限り(登校した限り)大切にす。

●Oプラスの教育

教育は、見せしめともとれるような、教師の保身のために行っている行為が多いのではないか。

子どもに働きかけることはかりを求めめるのではなく、子どもが「ターン」できるようにする。

今まで通りいかないような事例が聞かれることが増えてきたいようです。保護者からの「信頼」を得ることも大事だが、まずは「受容的態度」での「信頼」の中で子どもを変え、親とつながることを求めていく。成果がな

てもよい。受け入れることによって信頼の萌芽を育てる。

(2) 共同

きりぎりまで共同する。

学習がわかるまで(定着するまで)共同する。学習において孤独にしない。低位な子どもが共同し続けられるものは何か？

心の解放↓共同することに学力格差がないことが大事。

(3) 評価のあり方

形成テスト・・・単元別テストでは4月から7月の伸びが見えにくい。

到達テスト・・・習得主義をめざす。履修主義にしない。

総合テスト(手作りテスト)で一番最後にどこまでできたかで判断する。

学力テストについても、学力の低い子どもへの伸びに注目する。

■学力とは何か？

久保先生より

東大の問題：1000年の歴史を要約。どんな切り口でも書けることを求められている。オックスフォード大学の問題：口頭で問

う。どつどついつ側面からも質問された。

← 注文に応じて応えらる。

教育はいつも不十分だからこそ、「分析」する。

久保先生のお話を聞き、調べてみると、世界で有名になっている入社試験はどれも「注文に応じて臨機応変に考える」問題が多いことに気がつきました。

Google 入社試験

「吊り橋」

夜、4人が吊り橋を渡ってキャンプ場に戻る必要があります。彼らは懐中電灯を1つしか持っておらず、電池は17分しかもちません。吊り橋は1度に2人が渡れる強度しかありません。4人はそれぞれ1分、2分、5分、10分で吊り橋を渡ることが出来ます。どうすれば全員が17分以内で吊り橋を渡りキャンプ場に戻ることが出来るでしょう。

マイクロソフト入社試験

「マンホールの蓋」

問題：マンホールの蓋が四角ではなく丸いのはなぜでしょう。

思わず「なるほど！」と言ってしまいたくなるような、日常の中から切り取った、シンプルだけど確かに「なぜだろう」と聞きたくなるような問題でした。小学生でも答えられるような計算能力の問題ですが、合理的に考えられるかが求められます。発想力・着眼力、これは「孤独」に一人で学習するままでは育たないように思います。

この問題の解説をしていたサイトにこのような文章がありました。

「学生時代に頑張ったことは何ですか？」

「テニスサークルの副部長として…」などという、日本企業がみなやっているママ「トのよつ間抜けな面接はしない。」

自社に必要なスキルや思考能力を見極めるために、プロフェッショナルな「入り口」を設け、それをクリアしてきた人だけを迎え入れる。

まさに、「どんな力」をつけるべきなのか、考えさせられる内容です。

■読書感想文は何のために？

読書感想文は必要なのか？

辻村深月さん（作家）が学生の時に国語の先生に質問されたようです。すると、このよ

うな返答があったそうです。

「意見ありがどう。でも、私はそれは思いません。読書感想文は必要だと思います。宿題としてであっても、それをきっかけに、一年に一冊しか本を読まない子が確実にその一冊を読むこと、その本を通じて文章を書くことには意味があります。」

（2023年8月6日毎日小学生新聞）

「出合いをきっかけに」

このようなテーマで小学生新聞で特集されてきました。今まで「当たり前」にやっていた実践に「ねらい」を持つことで見え方は変わってくるのだということを改めて証明された内容で心に響きました。

夏の大会で、久保先生が「教師の力量を高め、安心安定して教育を行うための4つの条件」として

1. 教育哲学を共有でき、遠い仲間を持つ。
2. 正確な追実践を行い、結果を厳密に報告する。
3. 死人と語る視点まで読書する。
4. 教育の現状を憂い、ブラックの中に現状に危機をもつ。

と主張されていました。

希望を持って、少しでも前進できるようにちよつとがんばろう、という「やる気」を引き出してもらいました。

考える力をつけるための授業の組み立て方①

大阪教育サークルはやし 荒井 賢一

思考力の土台となるものとは？

「考える力」を別の言葉で、置き換えると、「思考力」となる。

まな板と冷蔵庫

思考力に関係がありそうなのが、脳の「ワーキングメモリ」である。



短期記憶という言い方もあるが、どちら

かといえば、脳の中の「作業領域」と考えた方がよさそうだ。

NHKの「ヒューマニエンス 40億年のたぐらみ」で「整理整頓」それはヒトの本能なのか」で、上絵のような例えが出された。冷蔵庫が脳の中の記憶で、まな板が「ワーキングメモリ」（作業領域）を表している。

実際のワーキングメモリも、まな板のように作業する領域が狭いので、たくさん記憶を引っ張り出すことはできない。

このまな板が大きければ大きいほど、脳の作業もやりやすくなる。要するに、思考力が高くなるわけだ。

しかし、そんな簡単に、まな板を大きくすることはできない。

そこで、大事になってくるのが、「抽象化」である。

キャベツ、大根、ほうれんそうなど、単体であれば、数個しか置けないが、それを

「野菜」と抽象化すれば、まとめて作業領域に置けるわけである。

物事を抽象化するのは難しい

「抽象化」というのは、簡単にできることではない。

例えば、白くて太くて地面の中で育つ野菜の一つが、大根だ。川柳で、

「大根引大根で道を教へけり（一茶）」

というのがある。これは、まさに抽象化の反対。具現化、具体化？

大根そのものを見せて、「これが大根だよ」といえば、幼い子でも覚えることができるだろう。

一方、「野菜」は、どうだろう。

「大根、コマツナ、ほうれんそう、カボチャなどを野菜と言うよ。」

と言われても、トマトが野菜かどうかまでは分からない。

「野菜」という言葉だけでは、野菜全てについて分かるわけではないのである。

右記で挙げた野菜の共通点を読み取らないと「野菜」というものが、腑に落ちてこない。

それゆえ、普段の授業の中で、「知っている野菜を言ってみよう。」「知っている果物を書きましょう。」と指示して、多くの野菜を言わせたり、多くの果物を書かせたりして、野菜というものの果物というものの理解を図っていく必要がある。

この「必要」も「理解」も、そういえば「抽象語」なのだが。

この連載では、考える力をつけるための授業をどう組み立て方を扱っていく。難しい抽象化を授業の中でどう学ばせていくか。次号では、言葉を抽象化している詩の扱い方について書く予定である。

思考停止という病理①

榎本博明『思考停止という病理』もはや「お任せ」の姿勢は通用しない。(2023.5 平凡社)の内容は、最近、私が感じている日本の現状を語っている。

日本の教科書では、無邪気に善意を信じて懐に飛び込んだ結果、本来敵であった相

手の気持ちが変わり、味方になったという作品がみられる。例えば「ニャーゴ」という話では、3匹の子ネズミが敵であるネコのことを無邪気に信じて親切にするため、このネズミたちを食べる機会を狙っていたネコも、子ネズミに好意を抱くようになる。

日本人は、こういう手の話が好きな人が多いと思う。特に、教師というのは、善人が多いので、この手の話に共感しやすい。

一方、中国の教科書では、敵にうっかり同情すると痛い目に遭うことを諭す作品がみられる。例えば「農夫と蛇」という話では、冬の日、道で凍える蛇をかわいそうに思った農夫が、自分の懐に蛇を入れて温めてあげたところ、蛇はよみがえって農夫を噛み、農夫は死んでしまう。

要するに、親切が仇になる作品なのだ。どうやら「イソップ寓話集」の中のお話のようである。農夫は今際の際に次のように叫ぶ。

「おお、これも、悪党に哀れみを与えた、

当然の報いだ！」

へびを悪党の象徴にしているところが、西洋的とはいえるのだが。

性善説に基づいて行動する日本人は、相手の言動を真に受けることが多い。でも、それは、思考停止しているともいえるのだ。

一方、性悪説に基づいて行動する大陸人は、相手を疑ってかかる。相手の一挙一動を観察し、思考し、判断していく。どちらが思考力をつけるのか、一目瞭然ではないだろうか。

【学力研Zoom例会

9月24日(日)午後2時〜3時】

毎月一回、Zoomによる例会を開いています。学力研会員なら参加無料です。ミーティングID…6930706442 パスワード…6533359

(今回は、森元麻里先生が、四年算数「面積」の研究授業について話されます。) また、近況をみんなで言い合って、情報交換や困ったことをどうしたらいいかなども話し合っています。

ぜひご参加ください。

社会科学（歴史） 授業力アップ講座 ⑧
教科書の文・図などを吟味する(二)

学力研常任委員 深沢 英雄

一、縄文土器は、縄文時代のどの時期にくられたのか？

先月号で縄文時代を年表で確認することで、教科書にある図（年表）を正しく読みとることの重要性をお話しました。

縄文時代の授業では、授業後半にもう一度年表を使用しました。

縄文時代に土器を使用したということを確認したあとに、こう問いました。

「この土器は、縄文時代のどのあたりで発明されたのかな。三内丸山遺跡があった時代。想像図に土器が描かれていますね。約5500年前から約1500年前には発明されていますね。この時代より前か三内丸山遺跡があった時に土器は発明されています。縄文時代の年表のどのあたりで、土器が発明されたか、班で相談してください。」

決まったら、磁石をつかって、代表の年表の上においてください。」と言って班で相談させました。先生方は縄文時代のいつ頃に発明されたと思いますか？

子どもたちは色々な場所に磁石を置いていました。一万年ぐらいのところに置いた班が一番古かったです。ある班は、三内丸山遺跡が始まった約5500年前のところに磁石をのせていました。

「正解は、教科書にあります。どの言葉ですか？さがしてください。班で相談してもいいよ。」と声をかけました。

教科書を子ども達は必死に探しています。でもなかなか見つけることができません。そこで、教師から教科書を限定して示すことになりました。

教科書にはこう書いています。

P59 「1万2000年ほど前から人々は、

貝や木の実を集めたり、シカやイノシシなどの動物や魚などを、石や骨などでつくった道具でとったりして、食料とするくらしをはじめました。同じころ人々は、食べ物をにたきしたり、たくわえたりするための土器をつくりはじめました。この器は、縄を転がしてつくったものが多いので、縄文土器といえます。このように、縄文土器を使っていた時代を縄文時代といいます。三内丸山遺跡は、この時代の遺跡です。」

教科書の言葉のどの言葉が正解を教えてくださいか？と問いかけました。

「同じころ」という言葉が返って来ます。とても、国語力が試されます。「同じころ」ということは、前にある一文の冒頭の1万2000年ほどを指しています。

つまり、縄文土器が発明された時から縄文時代が始まったという事です。

教科書は縄文時代のはじまりを1万2000年前と記述しています。三内丸山遺跡などが世界遺産になりましたが、その登録の時に出された文章には、縄文時代は今から1万5000年前と書かれています。日

本で一番古い縄文土器は、一万六〇〇年前の青森の山元遺跡からでました。研究は日々進んでいます。教科書の年代が書き換えられる日もくるかもしれません。

二、知っていること、分かっていること

子ども達との授業ではしませんでした。教師の教材解釈では、教科書の中にある文章について、すべて検討・分析する必要があります。

『緑の文章の中に「気になる表現」はありませんか？』

答えは、

【この器は、縄を転がしてつくったものが多いので、縄文土器といえます。】

「えっ、そんなの知っている。」小・中・高などで教えてもらって、当たり前だと思われたかもしれません。

教材解釈してみると、この文のどの言葉が気になりますか。

【多いので】

「多いので」ということは、一部はそうでないということを表しています。縄文土器＝縄を転がしてつくったものが多いという

いると思っではないなかったでしょうか。

「縄文土器は縄目がついている」と知っています。知っているのとそれ以上考えないことがありませんか。

長野県の平田治先生は、国語の教材解釈の講座でこういう話をされていました。

『自分が当たり前のことだなど思っていることをより高次で、より科学的な、より客観的で、より真実のような一般化にしていることが自分の頭で考える・思考することだ。見慣れたものに対して疑問を持ち、見慣れないものにしていく。ウィゴツキーは『思考と言語』で「言葉の意味は発達する・・・子どもは、自分自身の発達につれて初歩的な一般化からだんだんとより高次のタイプ的一般化へと移行し、そうして真の概念の形成でもってこの過程を終える。」と述べている。人間は、知らないものについては考えられない。知っているものについては考えられるが、考えないようになっている。』

縄文土器は、縄目がついているという教科書的な概念で頭にインプットされるとそこから考えないようになることがあります

んか。

青森の山元遺跡から出た最古の縄文土器は、模様が全くない無文土器です。今から一万年前から縄目の模様がつく土器があらわれ、縄文時代の初期には、縄目のついた縄文土器は存在しませんでした。一万年の長い縄文時代では時代により、地域により変化します。よく知られている、「火焰式土器」のように過剰な装飾が見られる、縄文土器がすべてのように思われますが、地域によっては、ずっと縄目のない土器を作った地域もあるのです。

みなさんは、歴史の授業で、どちらで覚えていきますか？

「縄文土器」「縄文式土器」

正解は、「縄文土器」です。

現在は、「式」をはずした縄文土器の呼称が採用されています。

「えっ。なぜ式がなくなったの？」と頭の中で問いが生まれ方は、調べてください。そういう「問い」を持つことがとても重要です。

「問い」（疑問）を持てる子どもに育てることが、教育の重要な役割ですね。

「先生のための学校」誌上 開校

学力研 先生のための学校 校長 久保 齋 2023 9

五年後の学力研を展望する

悪夢のようなコロナの3年間が過ぎてようやく見通しをもって学力研の行く末を語る気分になってきた。勿論コロナ禍が収まった訳ではない。ただ僕たちが慣れただけ、政府の政策で慣らされているだけで命の危険は一つも変わっていない。しかし、というか、人間の脳の特徴は「慣れ」と「早とちり」だそうだから、まあ、注意しながら近未来を語ろうと思う。

これから述べることは、私の個人的な意見であるから、学力研の中で大いに議論して頂きたいと思っています。

まぐまぐ会員と名簿登載会員

常任委員会で決定され、夏のフォーラムで報告があったように、学力研の会員資格はまぐまぐ会員登録者ということになった。以前は年会費を頂き、月一回の「学力研の

広場」を発送していたから、どのだれ先生が会員であるという連帯感や存在感があった。しかし、会費無料のまぐまぐ会員となるとそれはクラウド上にあり、存在感を感じられるものではない。約四百人のクラウド会員の中に二十七名の常任委員がぶかぶかと浮かんでいる感じだ。これでは学力研の組織としての体をなしていないことは明白だ。やはり、まぐまぐ会員と常任との間に住所や名前をしっかりと名乗って、学力研の会員して自覚をもって教師生活を送ってくれる会員が必要だと思う。

私はそれを名簿登載会員と呼ぼうと思う。今までの学力研会員を中心に、またまぐまぐから新しく関わりを持つことができた方も含めてフェイスツーフェイスで関わられる名簿登載会員の制度をつくるという考えはどうだろう。

コロナ前までやっていたように、常任が名簿を見ながら「この先生にはだれが連絡をとる」とか「あの先生こんど4年担任だ」といつておられたから、4年部会のレポート頼んでみようか」とか、そんな学力研らしい会話を取り戻したいと思います。

二十七名の常任が、一人五人の名簿登載会員と月一回、電話やラインで会話を行えばそれで百三十名の名簿登載会員という頼もしい仲間との交信が行え、学力研の新たな発展が約束されることになるのです。

学力研に興味のある方、教育実践を学びたい方にはまず、まぐまぐ会員になって頂いて学力研の取り組みをどんどん学んで頂いてほしい。学力研を幅広く知って頂くためにはまぐまぐ会員の制度は素晴らしい取り組みだと思う。そしてその中から、学力研で共に研究してみたいと思う人は名簿登載会員になって頂きもっと親しく交流し、共に研究を深めていきたいのです。

「会費は取らない、取られないが会員である」というコロナがもたらした応用問題をみんなの知恵を集めてよりよい発展の機会としていきましょう。

先生のための学校は

出来るだけ早くリアルな学校に戻す

学力研の取り組みは「学校」だけでなく出来るだけ早くフェイスツーフェイスの状態にもどさなければならぬ。勿論その取り組みを配信することはあっても、主な取り組みは従来通りに戻す。年に一回のフォーラムにはみんな和気あいあいと大阪に集まろう。学力研は配信団体ではない。学力研は研究団体だから集って双方向に意見を戦わせ研究し深い絆で結ばれ、研究を深化させなければ命を失う。

オンラインでの話し合いはリアルのつなぎでしかないから、過剰になると深まらなかつたり、誤解を生じたりする。今の学力研は今までの絆の財産の上に成り立つもので、オンライン依存ではいつかは、それは消耗し枯渇し、学力研の命取りになる。

会場費や交通費はいる。しかし、本来民間の研究団体は自腹が当たり前の姿だ。学力研に参加して学ぶと決意した人にはその実費だけでなくその活動が維持できる程度の参加会費は頂くべきだと思う。年会費ナシとしたのだから学力研の年間活動費はそ

れぞれの取り組みの参加会費に運営費として千円程度計上してもなんら問題はない。他の団体の参加費に比べて学力研の参加費は安すぎると思う。取り組みごとに必要経費はとってしかるべきで、運営財政をつくっていかなければ会は消滅してしまふ。

学力研の学校は学ぶ場だけでは意味がない。寄る辺づくりだけでも意味がない。学力研の学校は研究し、悩みを語り、ともにこの教育界を生き抜いていく同士、仲間をつくる所だ。

学力研真ん中世代が若い先生を誘う

今の学力研があるのは六十代、七十代の先生が「先生のための学校」をつくり、若い先生を迎え、その中から学力研の活動家を育てたからだ。そういう意味では民間研究団体の中では世代交代、世代継承に成功した部類に入ると思う。

そしてそれは、今や新しいフェーズに差し掛かっている。それは、今の真ん中世代が職場や知り合いの先輩先生に学力研の取り組みに連れてきてもらったように、今や学校では中堅、今や学力研の真ん中世代となったあなたたちが職場の若い先生をこの

学力研の取り組みに誘う活動を旺盛に行わない限り学力研の未来はないのだと言える。そしてそれは大層楽しみな取り組みとも言えるのだ。子どもの成長を見るのはこの上もなくうれしいことだけれど、職場の先生、知り合いの若い先生が学力研の取り組みを通して成長していく姿を見るのもまたうれしいものなのである。知り合いの先生をオンラインに誘い、そしてリアルな取り組みに共に参加してようやく実現できる大きなドラマの完成だと言える。

庶民のための、庶民の教師による

庶民のための教育改革を

「一斉授業の復権」を書き、先生のための学校をみんなで始めてもう十八年が過ぎようとしている。先生方の困難さは当時の予想を遙かに超えて厳しい。正に教育は死にかけているし、先生方は喘いでいる。

今や一斉授業の復権どころの騒ぎではない。もはや教師教育そのものが危ういところまで来ている。僕の学力研の最後の仕事として「教師・教育の復権」を出版し、世に問いたいと思う。当年七十三歳、ボケかけた頭に鞭を打つ。

局長だより 9月

◇学力研最新情報 岸本ひとみ
●新刊です！
その名も「ニヤン漢字ドリル」
川岸雅詩さん著
です。



こちらは「ぎゃくてん算数ドリル」です。
川崎和代さん著



学力研では、書店さんの協力での出版活動もしています。子どもたちの学力の基礎をきたえるための有効な手立ての紹介になります。定番になってきている「算数習熟プリントB4版」は、練習用プリントとして、会員のみなさんの学校にも、たぶん1セットは置いてあると思います。

●書き手も使います

実は、このプリントは、作る側（著者）も学校で使っています。リニューアルするたびに、教科書の内容に合わせて少しずつ内容を変えたり、難易度を調整したりします。全国津々浦々の学校で、根強い人気を誇っているのは、著者が自分たちの使いやすいように編集しているからだと思います。時々、扉のページを見て『習熟プリント』が欲しいのですが…。という問い合わせもあります。そういう時は、出版社さんの連絡先をお伝えして、直接購入を勧めています。

◇事務局だより 岡本 美穂
先日の全国フォーラムありがとうございました。久しぶりの対面講座でした。Zoomでは何度もお会いしている方も対面で初めての方もおられたりして新鮮な気持ちになりました。冬のフォーラムは合宿を計画しています。ぜひ、ご参加ください。

●第17期先生のための学校

テーマは：GIGAスクール構想下での授業づくり・学級づくり・学力づくりです。

毎回、学力研の常任委員が各講座を担当し、具体的な実践を通してGIGAスクール構想下での授業づくり・学級づくり・学力づくりについて迫っていきます。

●9月9日（土）

<https://www.kokuchpro.com/admin/e-e4af8c0db1df2e70ac50bc81961cf8b/d-2460319/>

●第1回のスケジュール

11:30～1:30 あいさつ
1:35～1:55

意識「できるわかるつなぐ」

1:55～2:15

算数について

「できるわかるつなぐ」

2:20～3:00

物語文「注文の多い料理店」

3:00～3:30 講評と講話

●10月14日（土）

[HTTps://www.kokuchpro.com/evnt/BE6607E4D55828DD4D25AE252F4D0E6/](https://www.kokuchpro.com/evnt/BE6607E4D55828DD4D25AE252F4D0E6/)

●11月11日（土）

[ht tps://www.kokuchpro.com/evnt/e80c9908ef46d0cb34bf320c710ec2d/](https://www.kokuchpro.com/evnt/e80c9908ef46d0cb34bf320c710ec2d/)

●12月19日（土）

[ht tps://www.kokuchpro.com/evnt/0abb330e41278e447c6fa35831442134/](https://www.kokuchpro.com/evnt/0abb330e41278e447c6fa35831442134/)

●1月20日（土）

[ht tps://www.kokuchpro.com/evnt/ab3a6ab09e22acd8a0af04775d400c60/](https://www.kokuchpro.com/evnt/ab3a6ab09e22acd8a0af04775d400c60/)

●2月10日（土）

[ht tps://www.kokuchpro.com/evnt/8adf016597b91ec5c4514c8a54e236c3/](https://www.kokuchpro.com/evnt/8adf016597b91ec5c4514c8a54e236c3/)

学力研カレンダー



《各地のサークル・部会 2023年 9月 例会、イベント》

どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせのうえお越しください。お待ちしております。

※会場等使用状況により、変更の可能性もありますことをご了承ください。

9/

- 3 (日) 神奈川学力研 10時～12時 県民サポートセンター704号室 (横浜駅西口) 湯浅 090-1104-4667
- 16 (土) 大阪教育サークルはやし 午後 エルおおさか 荒井 aik28501@bca.bai.ne.jp
- 16 (土) みなみ学力研 9時半～12時 阿倍野区民センター 図書 nobu580701@yahoo.co.jp
- 22 (金) 春日井学力研 18時半～ レディヤン春日井(JR勝川駅) 山口 080-6904-1697
- 29 (金) いろえんぴつ (加印) 18時半～ 稲美町ふれあい交流館 岸本 090-9117-6330
- 伊丹学力研 18時半～ ※阪急武庫之荘駅近く 前田 090-9715-3830

オンライン開催のサークルには、参加方法を連絡先にお尋ねください。

下記サークルも活動していますので、翌月以降の日程のお尋ね等をご連絡下さい。

- 持ち方書き方研究会 ライン会議で行います。日時や参加のしかたはご連絡を 前田 090-9715-3830
- 東大阪「ふじりんご」 19時～ 東大阪市文化創造館 岡本 mipo2468@yahoo.co.jp

《全国キャラバン等 今後の予定》

● 学力研・先生のための学校【全6回】

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 9月 9日 (土) 13時半～15時半 | 10月14日 (土) 13時半～15時半 |
| 11月11日 (土) 13時半～15時半 | 12月16日 (土) 13時半～15時半 |
| 2024年 | |
| 1月20日 (土) 13時半～15時半 | 2月10日 (土) 13時半～15時半 |

○1年生講座 第6回 9月23日 (土) 13時半～14時半

(詳細はメルマガ、「こくちーず」などで)

(講師派遣希望、サークル情報などは 事務局へ 079-425-8781)

夏休みが明け、学校に子どもたちが戻ってきました。サークル対話をしましたが、「学校来るのが楽しみだった人はいますか?」と尋ねると、約3分の1の子が手を挙げました。理由を尋ねると、全員一致で「友達に会えるから」でした。つながりを育てることの大切さ、改めて実感しました。(堀井)

ご意見・ご感想は下記まで

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 荒井 賢一 | E-mail aik28501@bca.bai.ne.jp |
| 李 詩愛 | E-mail iwamotoshie@gmail.com |
| 堀井 克也 | E-mail katsuya4k1h9@gmail.com |